

副編集長就任にあたって
「新たな冒険への出発」

加藤由花 (東京女子大学)

2018年4月から、会誌副編集長を務めることになりました。2期4年間の会誌担当理事に引き続き、昨年度は1年間、会誌編集委員会の委員として編集に携わってきました。そして今回、新たな編集委員会体制の発足に伴い、新しい役目をいただきました。これから、新たな気持ちで、新編集長をサポートしつつ、編集委員会、そして会誌を大いに盛り上げていきたいと思っています。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

思えば、この5年間は新たなチャレンジの連続でした。理事1年目は中島元編集長、そしてその後は塚本前編集長の下で、どうやって多くの会員の皆さんに「面白く、読んでもらえる会誌」にするのか、ひたすらそれを目指して突き進んできたように思います。季節感のある特集、連載コラムの掲載、速報性のある記事を積極的に取り上げる等の基本方針を踏襲しながら、新たな企画がどんどんと実現していきました。全国大会の場で「公開編集委員会」を行う、人工知能学会との共同企画、付録をつける、マンガの連載、学会公認LINEスタンプの販売等、非常にエキサイティングな日々でした。

そもそも、会誌の役割って何なんですか？ これまでも何度か言及させていただいているのですが^{1), 2)}、学会の原稿執筆要領には以下のように書かれています。(1) 会員の知識の向上に資すること、(2) 本学会の活動を報告し、会員各位の学会活動への参画意識を高めること、(3) 会員の意見発表、討論、情報交換の場を提供すること、(4) 学会の行事、ニュース、各種情報の要約等を提供すること。これを読むと分かるのですが、会誌には本来、会員の学会活動への参画意識を高める、意見発表や討論の場を提供するというコミュニティ形成の部分にも大きな役割があります。商業誌のように単に役立つ知識を伝授するだけでなく、会員相互の交流の場になるという役割が以前にも増して重要になるのでは？と考えていたところ、今回、稲見新編集長の巻頭コラムに、どんぴしゃな表現を見つけました。

日本最大かつ最高の「情報系同人誌」。まさしくこれ！です。そう、会誌はたぶん同人誌なのです。

学会とは、研究者・技術者の自主的な集まりで、私たち自身の運営によるコミュニティ活動にほかなりません。とはいえ、会員数約20,000人の大規模学会である本会では、



すべての会員が自分ごととして学会活動を捉えるのはなかなか難しいものです。この部分をどう会誌に反映させられるか。まず学会の活動を知ってもらうこと、そして学会の運営に携わっている各人が顔の見える形で(各人の個性に応じて)メッセージを発信していくこと、それによって会員の皆さんに学会活動を身近に感じてもらえればと考えています。

これから、3名の副編集長が編集長をサポートし、その実現に向けてさまざまなことに挑戦していきます。何やらこれは、某RPG(ファンタジー系ゲーム)の一場面を思い起こさせます。そこでは、戦士、魔法使い、僧侶等、さまざまな職業の仲間が勇者とパーティーを組んで冒険に出かけます。さて、それでは私たちも、2代目「勇者マサヒコ」^{☆1}とともに新たな冒険に出発することにいたしましょう！

参考文献

- 1) 理事からのメッセージ (https://www.ipsj.or.jp/annai/aboutipsj/kato_yuka_2.html)
- 2) 加藤由花：会誌編集委員会女子部：会誌の役割，情報処理，Vol.57, No.6, p.564 (2016)。

☆1 1代目マサヒコはもちろん、前編集長です。

加藤由花 (正会員) yuka@lab.twcu.ac.jp

1989年東大・理卒。NTT、電通大、産技大を経て、2014年から東京女子大学教授。2013～2016年本会理事(会誌・出版担当)。専門は情報ネットワーク、ネットワークロボット等。博士(工学)。